

争を正当化する発言が後を立たず、そのことが感情のもつれを産んでいる。国の付き合いも近所付き合いと同じである」と発言されました。

9条を守る運動は、朝鮮や中国、アジア諸国との友好関係の発展につながるものである、そのことに気付かされ、確信をもつことができた

一日となりました。

障害者・患者九条の会は6月で5周年を迎えます。私たちの活動に自信と誇りをもって、みなさまと手を携えながら、これからも取り組みを進めてまいりたいと思います。

(和歌山盲学校・野尻 誠)

## 『レスパイトケアを検討する会』が開催されました!

平成23年3月20日、第1回「レスパイトケアを検討する会」が、和歌山つくし医療・福祉センター（岩出市）で開催された。3連休の中日であったが、保護者、支援学校教員、在宅リハ、障害児リハ、和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科教授、学生、和歌山つくし医療・福祉センター院長、薬剤師、指導員、看護師、乳児院事務長などの計15人の参加があり、また今回参加できないが「ともに考えていきたい」という医師、行政の声もあった。医療的ケアのある子どもを受け入れる施設が極端に少ない現状のなかで、重度・重複障害をもつ子どもたちの関係者が声を上げ始め、ようやく光が差し込めて来た感がある。以下、3時間余りに及ぶ会で出された意見を基に、会の代表の方がまとめられた内容を掲載させて頂く。

「レスパイト」という意味は非常に広い。保護者や現場の職員でも、レスパイトという言葉を知らない人も多い。子どもが小さいうちは、家族のみで介護できるからと必要性を感じない親御さんも多い。一方、子どもは、場所や環境の変化に敏感であり、急な施設利用に備えて、小さいころから施設を知り、職員とのコミュニケーションと信頼関係を確立しておくことも必要である。例えば、オランダでは、子どもが生まれたあとのチェックリストに、「育児で疲れた時に助けてくれる施設はあるか」という項目

がある。日本は障害を隠そうとする文化があり家族だけで介護をしようとする傾向がある。文化背景の違いはあるが、現場は、利用者にレスパイトケアについて知ってもらう努力が必要である。

また、レスパイトケアを考える中で、利用者  
と現場のギャップも大きい。全国的にショートステイは縮小傾向。経営面とトラブルが多いためである。日ごろから施設に来てもらい、利用者、親とコミュニケーションをとっておくことが必要である。等の意見が出された。更に、在宅酸素や呼吸器の必要な児童などは、施設に来ることそのものが困難な場合もある。

また、地域がら、自宅で介護するという親も多い。外に出て行くことが困難な家族に必要なのは、電子媒体での情報提供、コーディネーターの確保ではないか。また、「おうちレスパイト」という訪問するシステムも必要になってくる。（現在、訪問看護は、1時間半まで）

環境変化に対応しにくい特性を持つ重症心身障害児にとって、突然の入所は大変なストレスになる。日頃から施設環境に慣れていただく必要がある。



国では「施設不要論」が議題に上がっている。「重症心身障害児の権利」の側面から一つの理論として成り立つが、その実現には現段階の数倍の人材、施設の充足が必須となる。現在、人材不足が最大の課題である重症心身障害児医療の現場で環境整備の一步になることを熱望するが、少なくともこの理論が実施に移せる展望は当分ないと思われる。このような議論が交わされていることを出席された保護者の方々から驚きの声が聞こえた。

やはり、たくさんの親に社会資源について、レスパイトケアについて、そして、施設について知ってもらうことが必要である。何かあったときに預けることのできる地域の施設を知ってもらうことが大切だ。

保護者、施設、地域、大学・・・で考えていきたい。等の意見が出されました。

\*次回は、7月に開催予定です。以上の内容について、さまざまな意見をお待ちしています。

(レスパイトケア検討する会)

## 中橋健さん、念願の就学を勝ち取る!

### 中橋健さんの就学を求める署名へのご協力のお礼

日を追うごとに暖かくなってまいりました。平素は本会の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。ごぞいます。

70歳を過ぎて「学校に行きたい」と訴え続けてきた中橋健さんの願いを実現したいと、署名への協力を呼びかけましたところ、ご支援ご協力を賜り、ありがとうございました。

皆様のおかげで、この4月から県立みはま支援学校の中学部3年生への編入という形で要求を実現させることができました。本来であれば、小学校1年生から入学すべきですが、中橋さんのこれまでの経験等をふまえて中学部3年生への編入ということになりました。4月11日の入学式以降、高等部卒業まで4年間の学校生活が始まります。どんな学校生活になるのか、今後も温かく見守っていただきたくお願いいたします。

今回このような結果を得られましたのも、全国の皆様から7000筆を超える署名へのご協力を頂いたおかげです。皆様の大きなご支援ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

2011年3月29日

障害者の生活と権利を守る御坊日高連絡協議会  
会長 山田 慈子